

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190200291		
法人名	株式会社フロンティアの介護		
事業所名	グループホーム むげがわの憩		
所在地	岐阜県関市武芸川町八幡419-1		
自己評価作成日	令和7年10月5日	評価結果市町村受理日	令和8年1月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index_nhp?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JiyosyoCd=2190200291-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	令和7年10月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>自然環境に恵まれた閑静な住宅地に立地しております。木のぬくもりと自然の明かりを取り入れ安らぎのある雰囲気を感じることができます。 ご利用者様の可能性(残存機能)を活かせるよう模索し、ご自身での活動を行えるようサポートをさせていただきます。 レクリエーション含め、利用者様本位でのケアを心掛けた環境作りに努めております。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>運営法人が変わり、新たな事業所名となって間もなく1年になる。理念に基づき、利用者・家族・職員すべての人の笑顔をめざして、介護サービスの質の向上と職場環境作りに取り組んでいる。タブレット端末での記録・インカムの導入・見守りカメラの設置等を整備中である。利用者の思いや意向を大切に、利用者が穏やかに笑顔で過ごせるよう、個を尊重した個別支援と集団支援を組み合わせるなど工夫している。法人の研修やキャリア段位制度など、教育体制や福利厚生を充実させており、職員のモチベーションアップにつなげ、利用者サービスの質の向上に取り組んでいる。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
43 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	50 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
46 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53 職員は、活き活きと働いている (参考項目:10,11)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼にて会社理念の唱和の実施。 施設内に掲示もしている。	全職員が法人の研修を受け、理念について理解の徹底を図っている。理念は廊下などにも掲示し、朝礼で全職員が唱和、意識を高めている。利用者の思いを汲んだ個別ケアと集団ケアを組み合わせる支援し、理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域、自治会との繋がりを大切に、民生委員の方々など交流を行っている。今年度も地域子供会の神輿に協力させていただく。	自治会に加入しており、地域の避難訓練や地域行事に参加し、子ども神輿への協力も行っている。市主催の文化祭で利用者の作品の出典案内があり検討している。八幡神社の活動が盛んな地域であり、事業所から御神酒の奉納なども行っている。	
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に運営推進会議の開催。 市や自治会より情報をいただいております、意見交換もさせていただいております。	隔月に運営推進会議を開催している。市担当者、社協、地域包括支援センター、駐在員や家族が参加し、意見交換を行っている。夏祭りなどの行事に併せて会議を開催することで、家族の参加も得られている。次回はクリスマス会と併せて案内し参加を促す予定としている。	
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組を積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者とは運営推進会議の場など、連絡をとらせていただいております。 また、空室状況報告などで助言、研修案内をいただき、サービス向上を目指しております。	行政とは、運営推進会議やメール・電話などで活動状況を報告し、助言を得ている。市主催の研修会には積極的に参加している。空室状況の報告や入居者についての相談をしながら、良好な関係を築いている。	
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホームにて身体拘束委員会を設けており、身体拘束を行わないケアへの取り組み、身体拘束廃止に向けて取り組みをしております。	身体拘束適正化委員会を3か月毎に開催している。ケアの振り返りや身体拘束発生の有無、予防について話し合い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。事故防止委員会も毎月開催し、ヒヤリハット・事故についての情報を共有している。	
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホームにて虐待防止委員会を設けています。 定期的な勉強会の実施。正しい知識を持ち、虐待を行わないという信念のもと、ケアに取り組んでおります。	虐待防止委員会も3か月毎に開催し定期的に、研修を実施している。処遇改善委員会や全体会議、コンプライアンス委員会でも、虐待の事例シートを用いての検討や、不適切ケアについてのケースカンファレンスを行い虐待防止に努めている。	

岐阜県 グループホームむげがわの憩

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会は少ないが、権利擁護に関する研修内容を設けている。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時では、双方で確認をしながら納得が得られるよう説明をおこなっている。質疑に対しても同様に納得が得られるよう説明をおこなっている。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	随時、お声掛けさせていただき、意見、要望、相談がしやすい関係作りに努めている。また、いただいた要件を運営に反映するよう努めている。	毎月、家族に「むげがわだより」を郵送し、利用者の様子を伝えている。家族とは、電話や面会時、運営推進会議・行事の際に、直接、意向や要望等を聴き運営に反映させている。運営法人が変わり、変更点について戸惑う家族もあり、個別対応に努めている。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議や面談などを通じて意見収集をおこない、働きやすい環境作りに努めている。	個別面談は、面談の必要性の高い職員から、順に実施している。全体会議や面談等での職員意見・要望を運営に反映させている。管理者と職員の関係は良好で、個人的な相談にも乗りながら職員をサポートしている。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	各資格手当などベースアップできる給与体制であり、資格取得に対してのサポート体制が十分に取られている。	職員の自己評価を確認し、年2回個別面談を行っている。家庭の事情や働き方についての希望を聞き、人事考課やサポートに役立てている。法人の福利厚生が充実しており、個々のワーク・ライフ・バランスに配慮しながら、様々な休暇取得や就業環境の整備などを行っている。	
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ケアマネ研修など多種ある法人内研修など積極的に参加できるよう支援している。	職員の経験年数や能力に応じた資格取得を支援している。法人には、キャリア段位制度や資格取得支援があり、業務の一貫として、法人内・外の研修を受講する事ができ、職員のモチベーションアップに繋がっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	法人内での他施設との交流があり(研修含め) サービスの質の向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様を尊重し、利用者様本位の生活が送れるよう努めている。そのために日常の会話など寄り添えるようなコミュニケーションを心掛けている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションや日々の言動、行動などから情報収集をおこない、希望や意向をケアに反映できるよう努めている。	職員は、利用者本人から、直接、思いや意向を聴き、職員間で共有しながらケアに反映させている。意思疎通が困難な場合は、表情や仕草から思いを汲み取っている。家族に電話をかけたいと申し出る利用者には、事務所の電話を使って、希望を叶えている。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	常時、情報交換、共有をおこない、主治医など連携機関からの意見も取り入れている。	介護計画は利用者、家族、主治医、職員など関係者で話し合い、ケアマネジャーが作成している。介護計画書を家族に郵送、または面談で説明している。今後は、家族の参加を得ての介護計画検討会議開催を検討している。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の様子、言動の記録、申し送りをおこない、状況変化への対応をしている。	介護記録が手書きからタブレット端末への入りに切り替わり、介護計画の個別目標に沿ったケアや記録を行っている。職員は、日々の様子や実践、結果、ヒヤリハットなど、もれなく記録し、職員間で情報共有しながらケアに活かしている。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	相互協力の下、ニーズに対して可能な限り対応ができるよう努めている。	法人の理学療法士による運動療法プログラムを取り入れ支援している。また、有料ではあるが、受診代行や本人・家族の希望を聞き、訪問理・美容院の利用等を取り入れている。夫婦同ユニットの入居希望にも対応している。	様々なボランティアや地域の社会資源を積極的に取り入れ、音楽療法やメイク・ネイル等、利用者のニーズに応じて、利用者の笑顔をめざした支援の提供に期待したい。

岐阜県 グループホームむげがわの憩

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	希望者に対して喫茶店への外出支援などは行っている。今後は、地域防災など地域行事への参加を予定している。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望の医療が受けられるよう、往診医やかかりつけ医など意向の確認をおこなっている。 通院時には、情報提供、付き添い支援もおこなっている。	契約時にかかりつけ医の選択について説明している。定期的な協力医の往診と訪問看護のケアがあり、利用者の健康管理を行なっている。月1回、理学療法士の訪問もあり、利用者の状態に応じた運動療法プログラムを実施している。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、サマリー作成、主治医からの情報提供をおこなっている。退院時、受け入れ体制を整え、退院支援もおこなっている。	入院時にはサマリーの提供を行っている。入院中は必要に応じて管理者が直接、病院と連絡を取りながら、家族とも情報共有している。退院前には、管理者・ケアマネジャーが、利用者の状態を確認し、受け入れ体制を整えている。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時には、意志確認をおこない、書面での確認もしている。施設対応が難しい場合は、移動施設の案内もおこなっている。	看取り指針を整備し、契約時に利用者や家族の意向を聞いている。看取り期には、医療機関と連携しミニカンファレンスで家族の意向を再確認した上で、ケア方針を決定している。転院の希望があれば同法人の他施設を案内している。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	適切な対応ができるようAEDの設置確認や吸引ツールの確認などおこなっている。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消防避難訓練の実施。地域訓練への参加も予定している。	年2回夜間を想定し、防災訓練を実施している。消防署から水消火器を借りて消火訓練も行なっている。3日分の備蓄食、職員用のヘルメット、防災頭巾などの持ち出し物品を準備している。AED/救命救急研修の実施や地域との協力体制の強化など、今後、取り組んでいくとしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心を尊重したケアをおこなえるよう、接遇、プライバシーに対しての勉強会をおこない意識向上に努めている。	利用者を常に尊重したケアについて話し合い、実践に繋げている。精神的に不安定な利用者へのスピーチロックや不適切ケア等は、職員間で注意し合い、効果を上げた関わり方の事例はホーム全体で共有している。コンプライアンス委員会による研修も行っている。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーション時には、自己決定や希望を表現しやすいよう信頼関係を築く努力をしている。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の状態など考慮し、希望に添えるよう臨機応変に支援している。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できる限り、食器洗いなど共におこなえるよう促しをしている。 行事では好みのおやつ提供をしている。	ご飯と汁物は事業所で作り、副菜は法人提携業者から届く調理済み食材を盛り付けている。調理職員の補充ができ次第、3食全て手作りに切り替える予定である。職員と一緒に片付けや食器洗いを行う利用者もある。行事の際には、利用者の希望も反映させている。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスのとれた献立での提供をしているが、摂取状況により対応策を講じている。 また、栄養状態により往診医から補助食などの対応もいただく。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの実施。必要に応じて歯科医、衛生士による介入をしている。	歯科医や歯科衛生士による定期訪問があり、診察と口腔ケアの指導、助言を得ている。口腔ケアは毎食後行い、利用者の状態に応じた方法で介助している。義歯は夜間に預かり消毒している。常時、義歯を装着している人には、食後消毒して返却している。	

岐阜県 グループホームむげがわの憩

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	本人意向、タイミングに合わせてトイレ誘導をおこなっている。オムツ、パッドなども適正な選定もおこなっている。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	基本的に週2回の入浴を支援している。本人の心境などに合わせ、入浴タイミングなど臨機応変に対応している。機械浴もあり重度の方も入浴できる環境である。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、夜間でのバランス調整を考慮しながら、本人意向に沿って休んでいただいている。また、空調の利用にて安定した環境となっている。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報は常時閲覧できるようシステム化されている。定期的に服薬指導など薬剤師との連携もしている。	薬局から届く薬剤を、担当職員がその日の配薬を確認、セッティングしている。薬はQRコードによるチェック体制ができており、誤薬を防いでいる。日頃から薬剤師と連携を図り、服薬相談や指導を得ている。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	無理のない範囲で能力に応じた役割(食器洗いなど)をしていただいている。体操、掲示物作りなどレクリエーションも個々に合わせて参加いただいている。	利用者の得意なことや趣味を把握し、個々の能力を活かして継続していけるよう、支援している。また、体操やレクリエーションなど、小集団で行う企画を考え、利用者の意向を確認しながら参加を促し、それぞれが気分転換できるよう工夫している。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候が穏やかな日には、散歩や近隣への外出を予定している。ご家族様との外出支援をしている。	日常的な外出支援が減少したことを懸念し、同法人事業所から応援職員がある日には、散歩や個別支援を積極的に実施している。以前、行っていた買い物支援や近所の喫茶店での食事なども再開する準備をしている。	日常の外出支援が難しい状況ではあるが、散歩や中庭での外気浴、お茶会や食事会など、家族の協力を得て季節の外出計画を立てる等、支援の活性化に期待したい。

岐阜県 グループホームむげがわの憩

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に、施設での金銭管理はしていないが、ご本人様、ご家族様より意向がある場合には相談可能である。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お手紙、お電話の取次ぎは、希望があれば対応している。携帯電話を所持されているご利用者様もみられます。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある掲示、空間作りをするよう努力している。 空調、照明など職員中心でなくご利用者様視点での調節ができるよう考慮している。	天井も壁も木材がふんだんに使われており、木のぬくもりと自然の陽が差し込む明るいホームである。廊下も、車椅子や歩行器を使用する利用者が、安全でスムーズに移動できる広さがある。利用者と職員と一緒に作った季節の作品が飾られ、訪問する家族も楽しめるよう工夫している。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースでは、気のあった会話ができるような配置を考慮している。また、居室で過ごすなど個々で思い思いに過ごしていただいている。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、使い慣れた物など自由にお持ちいただいている。安心して生活していただけるように配慮している。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個人にあわせて表示が見やすい配慮など注意している。		